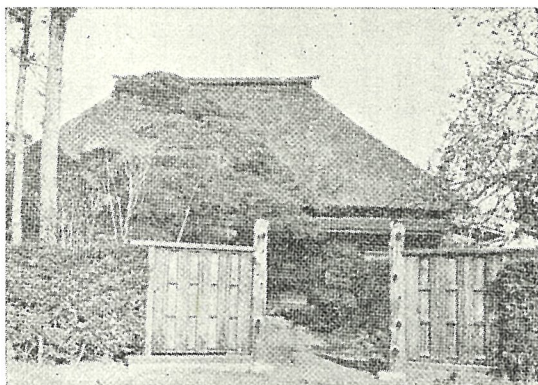




山崎為徳の生家

同 志 社

歴 史 散 歩

水 沢

菅 隆 志

1

みちのくの冬は早く来る。そして長い。この重苦しい冬を忍耐して植物はひたすらに春の到来を待つ。このような風土は不屈の精神を形成するに極めて効果のあるものである。

みちのくの一角、厳密に言えば、北緯三九度八分の地に水沢がある。この土地は同志社と深い関係を持つのみならず、京都とも浅からぬ因縁がある。平安の昔、京都よりはるばる北進して来た坂上田村麻呂が北辺の守護を固めるために築いた胆沢城跡は市の北方にある。また京都と対抗し、藤原三代の栄華をほしいまにした跡をとどめる中尊寺、その所在地であり、義経の哀史を千古に伝える平泉も水沢を距ること僅かなところにある。

水沢は徳川時代は伊達藩の領地となり、世々留守家が水沢の藩主であった。水沢の輩出した数々の偉人の中でも最も光彩を発揮しているのは高野長英である。この水沢と同志社との関係を記すためには忘れることの出来ない人物がいる。すなわち山崎為徳氏である。

2

山崎為徳氏は安政四年（一八五七）に水沢

で水沢藩士山崎為美氏の長男として誕生した。同時代の友人に斎藤美氏、後藤新平氏があり、世に三人のことを水沢の三秀才と呼んでいる。明治の新政は東北の地にも清新の気をもたらし、明治二年水沢に胆沢県庁が置かれ、他県から優秀な指導者が水沢に来た。その一人に熊本出身の小参事野田大造氏が居た。明治五年野田氏が郷里熊本に帰ることとなり、将来有為の少年を熊本へ伴い帰ろうとした。その選に与ったのが山崎為徳氏であった。山崎氏は青春の志を抱いて野田氏に随ってはるばる南国熊本へと旅立った。そこで野田氏の紹介で、ジェーンズ大尉により新教育を施そうとしていた熊本洋学校に入学した。山崎氏は九州男児とともに勉学に精励し、明治八年第一回の卒業式に首席で卒業した。同級生には小崎弘道氏、森田久万人氏、横井時雄氏らがいた。山崎氏は熊本でジェーンズの感化で神を知り、キリストを信じたが、これは生涯の方向を定めるのに決定的な事であった。

熊本洋学校を卒業した山崎氏は東京の開成学校（東京大学の前身）に入学した。しかし氏は開成学校に満足出来ず、はるか西京に新島襄先生が生涯を傾けて開校した同志社に憧

れを持ち、開成学校を捨てて同志社に入学し、新島先生に師事しようとの決意を固めるに至った。その間の事情について山崎氏は次のように記している。

「開成学校にては教師を数千里の外より雇い、莫大の器械を求め、数百の生徒を日本中より集め、壮麗なる学舎を建立し、数多の学科を置き、数万の書籍を求め、誠に日本第一の学校にして、人々日本中の第一とすれども其の内情を見れば事が育わず。……

故に此の学校を去り、為徳一人の徳を修むるを務めざるを得ず、為徳万国を見るに耶蘇基督教に如く者なし、西京に学校あり、耶蘇教を学ぶに適し、故に大学を去り、西京に行き、三年間も此の教えの真意を得んと欲す」かくて明治十年九月東京を出発し、新島襄先生に会い、同志社に入学した。山崎氏は同志社に学ぶこと三年、明治十二年第一回の卒業式を首席で卒業した。そして森田久万人氏、市原盛宏氏とともに母校同志社に教授兼幹事として止まり、新島先生の片腕として同志社教育に専念した。山崎氏に師事した大西祝博士は「その頃僅かに伝道師養成所に過ぎざるの観ありし同志社が漸く一学校の面目を見る

に至れるは山崎氏の力、大に与れり」と同志社教育において山崎氏の果たした役割について語っている。しかし明治十四年春頃より病魔の犯す所となり、始めは有馬温泉で療養していたが、新島先生のすすめを受け入れ、新島邸で療養につとめたが甲斐なく、十一月遂に二十五歳にして不帰の客となった。山崎氏の葬儀は同志社葬で行なわれ、現在若王子の新島先生の傍らで眠っている。

3

山崎氏が初穂となつて、水沢出身者で同志社に学ぶ者が相いつぎ、水沢と同志社とは深い関係を持つに至った。山崎氏について同志社の門を叩いたのは片桐清治氏であった。氏の父片桐英之助氏は水沢留守藩の京中流槍術の師範であった。清治氏は明治十三年郷党より選ばれてはる同志社に赴いた。かくして同志社で学ぶこと五年、明治十八年卒業とともに郷里水沢地方の伝道師となり、キリスト教の宣教に精進した。やがて明治二十一年、

山崎先生が校長となつて東華学校が設立されるや、片桐氏は東華学校の幹事として赴任し、その時以来、仙台に留まり、東三番

丁教会の牧師として多くの人々を教化した。氏の次男哲氏が同志社の教育に専念されてゐることは周知のことである。

片桐氏より遅れること十余年、明治三十二年会津喜多方より高橋正道牧師が水沢教会の牧師として赴任された。比は水沢出身の高橋隆氏と結婚、十余年の水沢の牧会はまことに活氣溢るものであった。氏の子息、高橋勘氏は現在、同志社高校の校長として奉職されている。高橋正道牧師の導きでキリスト教に入り、山崎、片桐両氏に続いて同志社に学んだ方が高橋暴三氏である。氏は郷里水沢のほか東京、新卒等各地の教会の牧師を歴任、現在東京に在住されている。その他、水沢の隣り町の金ヶ崎町からは千田民衛が出身、長く同志社に奉職されたが、今は審美川市の一角で自適の生活を送つて居られる。

山崎為徳氏の死にあつて、新島先生は「一人の山崎は死んだが、諸君のことごとくが山崎のようになつてくれるならば、彼の死はわれわれの損失ではない」と挨拶された。山崎氏に続いて今もなお水沢の地から同志社に学ぶ者が跡を絶たないのは心強い限りである。